

21 世紀の課題とチュチュエ思想の今日的意義

チュチュエ思想国際研究所副理事長
アジア・チュチュエ思想研究所名誉理事長
ハリシュ・グプタ

アジア・チュチュエ思想研究所理事長先生
著名な来賓のみなさん
代表のみなさん
学者のみなさん
同志と友人のみなさん

わたしは、「21 世紀の課題とチュチュエ思想の今日的意義」という、非常に重要かつ普遍的なテーマで開催されている本アジア地域チュチュエ思想セミナーにおいて、自分自身の名において、また、アジア・チュチュエ思想研究所を代表し、みなさんを厚く歓迎できますことを、たいへん光榮に存じます。

本セミナーは、アジア・チュチュエ思想研究所創立 45 周年というたいへん意義深い節目に、誇り高き伝統と豊かな知的基盤をもち、そして、人々がたくましく生きる国、モンゴルの首都で開催されています。

わたしは、この集まりの現地開催を引き受け、集まりの成功に向けて尽力してくださったモンゴルの同志たちに心からの謝意を表します。

それでは、セミナーの主題に関し、わたしの所見を述べさせていただきます。

同志と友人のみなさん

こんにち世界では、各国が深刻な課題に直面しています。事実、経済開発や経済の不確実性の問題、貧困や飢餓の蔓延、所得や財産の分配における不平等の拡大、失業率の増加、債務不履行問題、気候変動や悪化する環境問題など、諸々の問題がひきおこされています。

さらに、現代世界においては、社会正義、軍事侵略、安全保障問題、世界平和など、地政学的かつ思想的な問題が山積しています。

それだけではありません。21 世紀の世界では、帝国主義者が、多くの国々にたいして内政干渉を強めています。その結果、社会主義を志向してきた国々にお

いて、また、自主性や主権のためにたたかってきた国々において、領土紛争が引き起こされ、内戦が激化しています。

こんにち世界では、いまもなお、長期に及ぶ終わりの見えない戦争がつづいています。代表的なものの一つは、イスラエルと、パレスチナ、レバノン、シリア、イラン間の戦争、もう一つは、ロシアとウクライナ間の戦争です。両者はともに、米国を頭目とする帝国主義によって操られている戦争であり、当事国の自主性と主権を脅かし、世界平和に深刻な暗雲を投げかけています。これらの戦争は、貴重な財貨を広範囲にわたって破壊し、これらの国の数多くの人々を前例のない苦境に追い込んでいます。

2023年10月7日に始まったイスラエルとパレスチナ間の紛争において、イスラエル軍は、人類の前に恥ずべき残虐行為と戦争犯罪をはたらいてきました。イスラエル軍は現在までに、ガザ地区とヨルダン川西岸地区において、六万人を超える、主に女性と子どもを含む無辜の民を殺害または負傷させてきました。いまもなお、飢餓、住居の欠如、医療施設の不足により、日々数百人が命を落としています。国際人道支援は、人々の要求に応えるどころか、多くの障害が立ちほだかるなか、それを必要とする人々に届いていません。また、ガザ地区では、食料や必需品を受け取るために列に並んでいた多くの女性や子どもが、無慈悲にも射殺されています。

世界中の平和を愛する人々が、これらの残虐行為、戦争犯罪、ジェノサイドを黙視するのではなく、団結した力で、やめさせる時が来ました。わたしたちは、これらのおぞましい戦争犯罪者にたいし、直ちに戦争ゲームを止めさせ、人類が生き残り、世界に平和が訪れるようにしていかなければなりません。「自分も生き、他者も生かす」ことが、すべての人のモットーとならなければなりません。

最近、ドナルド・トランプ大統領は、輸入品に、不合理かつ不当な高い関税を課し、多くの国々に経済問題を引き起こすなど、世界経済をゆるがしています。不当な貿易戦争が展開されるなか、ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカなど、BRICSの有力諸国は、米国に対抗するために、これらの諸国間でより緊密な連携を取りあい、相互に互惠貿易の協定を結ぶことで合意しています。他の多くの国々も、この動きに呼応しています。わたしたちは、新しい世界秩序の構築、一極世界から多極化された世界への移行を願い、実現していきましょう。

こんにちの激動の時代において、金日成主席が創始し、金正日総書記が発展豊富化させたチュチェ思想は、各国が自主の道をきり拓くための革命的な指導

思想としての役割を果たしています。チュチェ思想は「人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定する」という哲学的原理にもとづき、現代の諸問題を克服のための思想、理論、方法を明示しています。

チュチェ思想は、各国人民が主権を固守し、自力更生していくための指針です。

チュチェ思想は、たんなる政治学説ではなく、包括的な世界観です。「チュチェ」がその核心をなし、つぎの内容を明らかにしています。

- ・ 革命と建設の主人は人民大衆である。
- ・ 人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定する。
- ・ 政治における自主、経済における自立、国防における自衛が国力を支える基本的な柱となる。

これらは決して抽象的なスローガンではありません。これらは朝鮮人民の歴史的な経験に深く根ざしたものであり、いまや、アジア全体が、このようなチュチェ思想の適用に共鳴しています。アジアのどの国も植民地支配を経験しました。アジア諸国は、誇り高い文化をもち、真の政治的自主を希求しています。いまではこれは、わたしたちのあいだでの共通認識となっています。

こんにち、外部勢力は依然として、経済的圧力、文化的同化政策、軍事的恐喝など、新植民地主義的手法を用いて弱小国を支配しようとしています。このような状況のもとで、チュチェ思想は、抵抗と再生のための思想的指針となっています。

つぎに、21世紀にわたしたちが直面している緊急の課題に焦点を当てながら、チュチェ思想が学術的かつ実践的に明らかにしている内容について述べたいと思います。

1) 政治的主権の侵害

こんにち、発展途上国にたいする外部勢力による内政干渉が、依然として横行しています。それは、いわゆる押しつけられた民主化プログラム、経済制裁、または思想的浸透を通じておこなわれています。

チュチェ思想がわたしたちに、政治的自主の原則を想起させます。すなわち、どの国も外部勢力に依存しては自らの未来を決定することはできないというこ

とです。真の民主主義は、自国人民の集団的意志から生まれます。外部の指示や強制から真の民主主義は、決して生まれません。

2) 経済的依存の問題

経済ネットワークが地球的規模で拡大することにより、多くの国が不安定な市場と外国資本に依存するようになりました。

チュチェ思想にもとづく経済的自立は、外国企業の利潤を優先するのではなく、国内資源を基盤とし、自国人民の需要を満たし、自国人民の福利厚生をはかることを中心に据えた、長期的な国家発展の青写真を明示しています。

3) 民族性をめぐる問題

帝国主義による文化的浸透は、世界の多くの地域で、民族的伝統を侵食してきました。西洋のメディア、消費を重視する経済政策や価値観は、しばしば民族の言語、慣習、社会的価値観を根底から覆してしまいます。

しかし、チュチェ思想はわたしたちに自己の文化にたいする誇りをもつよう促します。自国の文化の保存と促進は、発展の障害となるものではなく、真の進歩を達成するための基盤となります。

4) 地球環境の危機

地球環境の危機をめぐる問題にたいして、これまでチュチェ思想が踏み込んで議論をしたことはありません。しかし、チュチェ思想は、人間と自然の調和、資源の計画的な利用、利潤目的の短絡的な搾取ではなく長期的な発展計画という原則を明らかにしており、これは、今日の状況において非常に重要な意味を持っています。

5) 青年問題

こんにち、若年層もしくは青年は、錯綜しあう価値観と、基軸のない思想の影響を強く受けています。チュチェ思想は、青年をグローバル化の受動的な受け手

ではなく、変革の主体とみなします。そして、青年の歴史的役割を明らかにし、青年をたたかいに奮い立たせています。

金日成主席が強調するように、青年は革命の前衛であり、自力更生と民族的誇りに基づく教育がなされなければなりません。

6) アジア・チュチェ思想研究所の役割

アジア・チュチェ思想研究所は、多様性に富むアジア諸国における、チュチェ思想の学術交流、研究普及の促進のために全力を投じています。わたしたちは、アジアのそれぞれの国において、学者、学生、文化人、政治家らと連携をとりあいながら、相互理解と、それぞれの国の国家的発展と学術研究の促進のために、独自の取り組みをおこない、深化発展させています。

本セミナーは、アジア諸国のチュチェ思想研究普及活動における、重要な里程碑となるでしょう。自主性のための闘争において誇らしい伝統をもつモンゴルには、チュチェ思想研究を促進させるための確固たる土台があります。

わたしたちは、チュチェ思想を朝鮮にのみ当てはまる思想であると捉えてはなりません。チュチェ思想が言及する普遍的なテーマ、国と民族、人間の尊厳、自主性と主権、人間の創造性は、自己の運命の主人となることを願う人々がいるかぎり、どのようなところでも、適用することができます。

「人間はあらゆるものの主人であり、すべてを決定する」というチュチェ思想の哲学的原理は、人間のかぎりない可能性にたいする確信を表明するものであり、こんにちの不確実性の時代において切実に求められる原理です。

同志と友人のみなさん

わたしたちは、チュチェ思想を論ずるためにだけ、ここに集ったのではありません。チュチェ思想の英知を、現代の緊急の課題の解決に適用するためにここに集ったのです。ですから、わたしたちは、次のことを再確認しましょう。

・わたしたちは、すべてのアジア諸国において、主権に関する思想や自主的な政策をうちだせるよう、努力していきましょう。

・わたしたちは、すべてのアジア諸国において、国家的な需要と人民の福利厚生を優先する経済システムの構築のために努力していきましょう。

・わたしたちは、すべてのアジア諸国において、民族的自負心を高め、覇権勢力に反対する運動を促進するために、献身していきましょう。

・わたしたちは、変革の主体的力量である民衆の創造性にたいする確信を強めていきましょう。

金日成主席の言葉を引用するなら、「世のなかでもっとも貴いものは人間であり、もっとも強力な存在も人間であります」（「わが党のチュチェ思想と共和国政府の対内対外政策のいくつかの問題について」1972年9月17日）となります。

チュチェ思想によって明らかにされた真理を、21世紀の課題に直面するわたしたち自身の指導指針としましょう。グローバリゼーションが跋扈するとき、わたしたちは、自らを無力なグローバリゼーションの犠牲者とみなすのではなく、自己の歴史の誇りある継承者として、わたしたち自身の未来の頼もしい建設者として、活動を促進させていきましょう。

最後に、ここにご参席された、すべての代表者のみなさん、モンゴル準備委員会のみなさんに、わたしは、心からの謝意を重ねて申し上げます。

わたしたちは今後、より緊密な協力関係をきずき、わたしたち自身の知的好奇心をさらに発揚させ、本セミナーを、わたしたちが、自主性、国と民族、人間の尊厳を擁護し、創造的發展をもたらすチュチェの道にいささかのぶれもなく献身していくうえでの出発点としていきましょう。